

医師確保対策 政策提案 報告書

島根県医師募集キャラクター
赤ひげ先生



島根県観光キャラクター
「しまねっこ」
島観連許諾第8号

**SHIMANE
AKAHIGE
BANK**

平成23年4月28日

「医師確保対策」検討グループ

政策企画監室	三村暁範
統計調査課	石井寛子
人事課	持田隆之
西部県民センター	三島 功
市町村課	竹下正宏
医療政策課	岸 学思
高齢者福祉課	青砥智訓
林業課	伊藤典子
益田県土整備事務所	北浦克成
病院局中央病院	八尾佳宏

目 次

はじめに	1
1. 医師不足の「現状」と「課題」	2
(1) 医師数	2
(2) 医師の大学医局離れ	5
(3) 島根県内の医師の状況	6
(4) 国における医師確保対策	8
2. 関係者との意見交換	9
(1) 意見交換した関係者	9
(2) 主な意見	10
3. 課題解決のための政策方針	12
(1) 「つながり」を重視した医師の育成	12
(2) 住民への地域医療の啓発	13
(3) 現役医師への支援	13
4. 具体的な施策	14
I 医師の道を志す子どもを育てる	14
(1) 夢実現進学チャレンジセミナーの充実	14
(2) 夢チャレンジサポーター制度による出身学校への出前講座	15
(3) 地域医療に関するDVD及び絵本の作成・活用	16
II 島根大学医学生及び卒業生の県内（医局）への定着	17
(1) キャリア構築の支援	17
(2) 魅力ある医局づくり	18
III 地域医療の啓発	19
(1) 地域医療を考える日（週間）（仮称）の創設	19
(2) PRキャラクターグッズの作成	21
IV 現役医師の支援	22
(1) 各病院への地域医療マネージャー（仮称）の配置	22
(2) 女性医師への支援	23
(3) 医師の生活環境の整備	23
V その他	24
(1) 赤ひげバンク制度の充実	24
附属資料	27
1. 島根県が実施している事業	28
2. 検討会議等経過	29

ーはじめにー

全国的に医師不足が叫ばれる中、本県でも勤務医の医局への引き上げ等により、地域の医療への影響が深刻化してきている。

島根県において、将来、安心して生活し、安定した医療を享受できる社会を形成していくためには、島根県内の医師を増やしていくことが喫緊の課題であり、そのために必要な施策を若手職員で構成するプロジェクトチームで検討した。

提案にあたっては、県内で勤務する若手医師や中核的な病院の病院長及び医学部学生、また、教育面からの課題を把握するために教育関係者とも意見交換し、現場の生の声を政策提案に反映した。

1. 医師不足の「現状」と「課題」

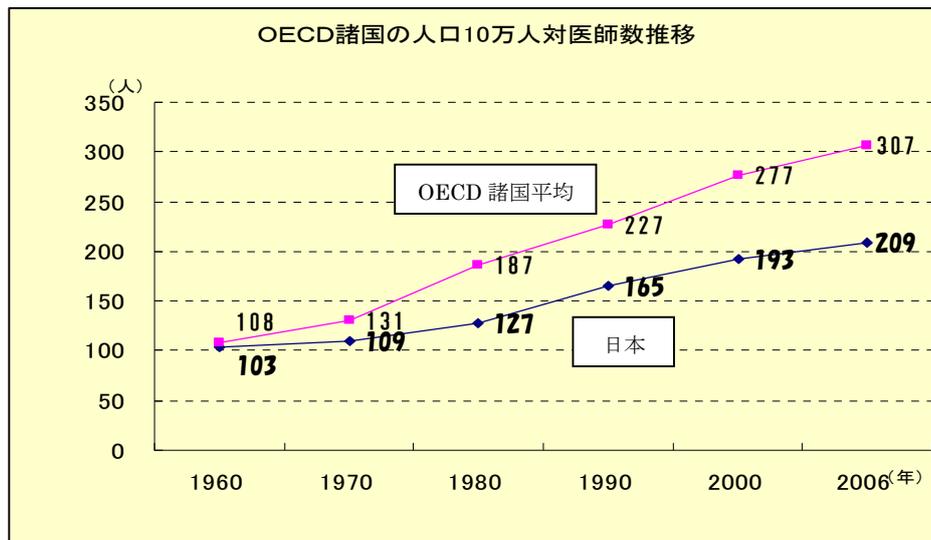
(1) 医師数

① 全国の医師数

日本の人口10万人あたりの医師数はOECD諸国と比較すると、2006年時点でOECD諸国の平均が307人であるのに対して209人であり、日本は世界的にみて医師不足であり、その差は拡大している。

◎OECD諸国との比較

図表1



資料：医療政策課

② 島根県の医師数

平成20年の人口10万人あたりの医師数は、264人で全国平均225人を上回っている。しかし、医師の7割が松江医療圏（県庁所在地）と出雲医療圏（大学病院所在地）の2医療圏に集中し、他の5つの医療圏は医師不足が深刻で、人口10万対医師数も全国平均を下回っている。

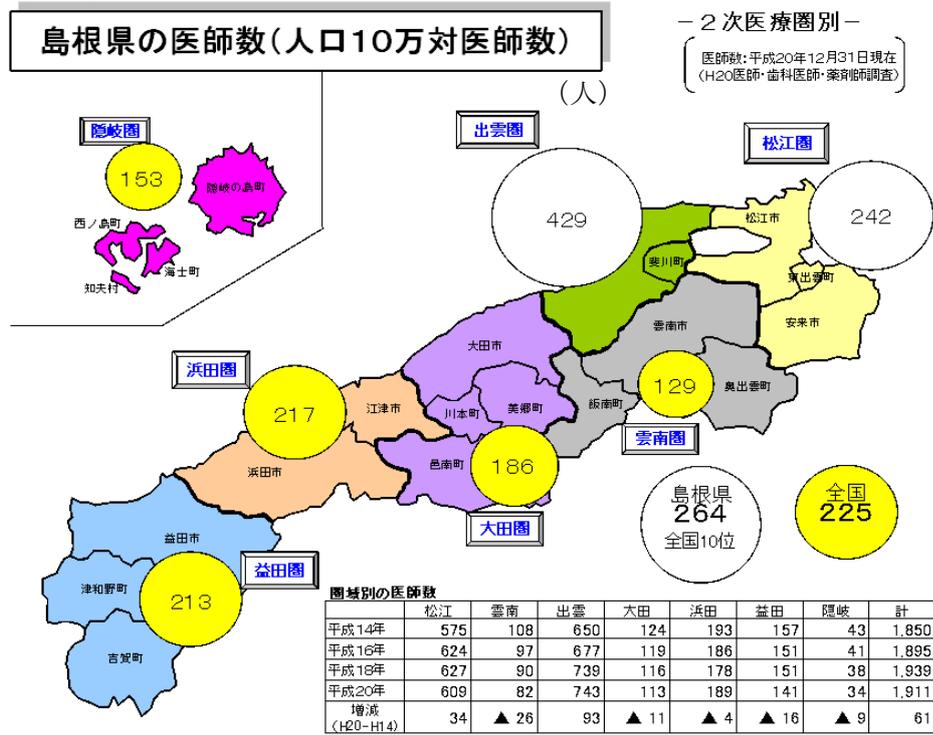
また、平成22年度の勤務医師実態調査によれば、本県で不足する医師数は約250人であり、充足率は79%である。

このことにより、県内の離島・中山間地域の中核的な病院においては、救急告示の取り下げや病棟の廃止、里帰り出産の休止などの問題が発生し、住民の生活に直接影響が発生している。

その解決のためには、継続的に島根にゆかりのある医師を養成することと同時に県外から現役医師を招聘することが必要である。

◎ 2次医療圏別の医師数（人口10万人対医師数）

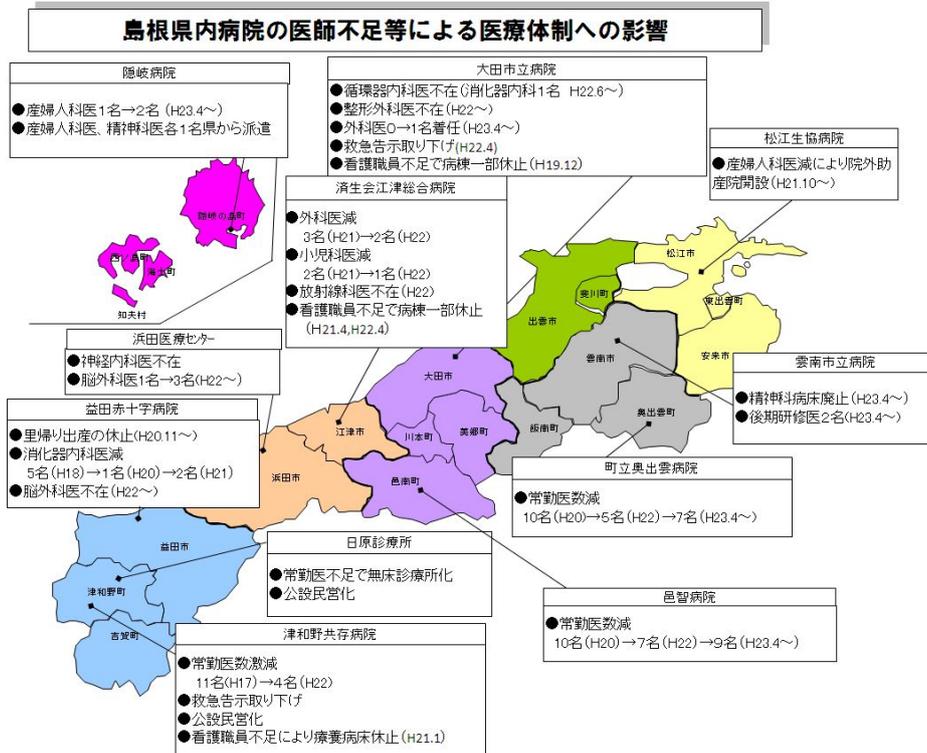
図表 2



資料：医療政策課

◎ 医師不足の影響

図表 3



資料：医療政策課

③ 医学生向け奨学金の貸与状況

平成14年より制度化した地域医療奨学金をはじめとする医学生向け奨学金の貸与者は、約100名にのぼり、少しずつではあるが、医師となり県内の医療を支え始めている。

このまま貸与を続ければ、平成26年度には、奨学金の貸与を受けた医師が約80名、平成30年には約190名となり、医師不足解消の大きな一助となる。

今後も奨学金の貸与を受けた医師を養成するとともに県民に対しても、制度を周知していく必要がある。

◎奨学金貸与者等の状況

図表4

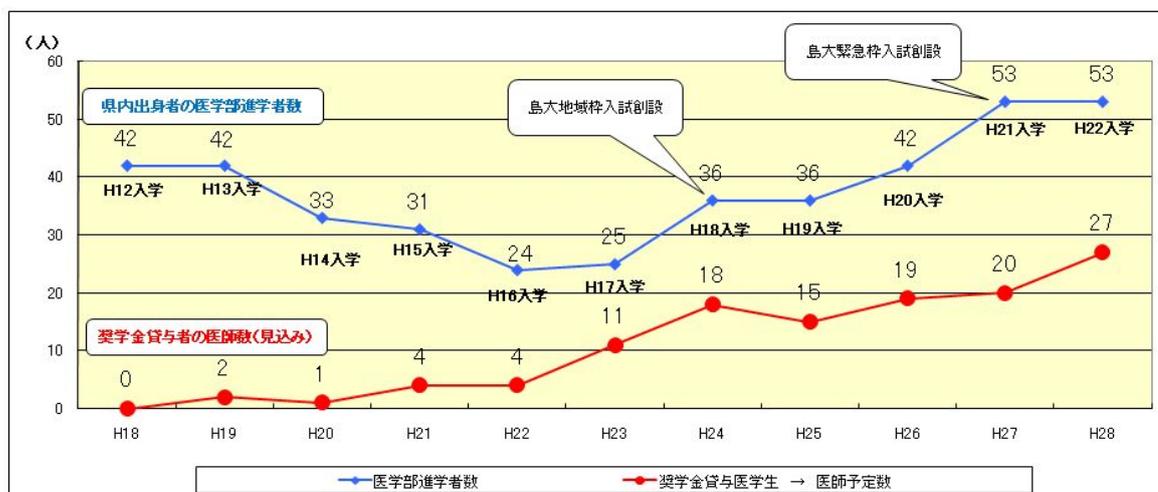
奨学金 学年別貸与状況(H22年度)

制度名	H22 定員枠	医 学 生						医 師		合計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	初期	3年目 以上	
地域医療奨学金 (H14～)	22	22	14	17	15	14	7	6	3	98
しまね医学生特別奨学金 (H18～21)	0		1		2	4	2	2	1	12
緊急医師確保対策枠奨学金 (H21～)	5	5	5							10
特定診療科医師緊急養成奨学金 (H22～)	8		2	1	1	1	3			8
合計	35	27	22	18	18	19	12	8	4	128

資料：医療政策課

図表5

島根県内の医学生、奨学金貸与者の動向



資料：医療政策課

(2) 医師の大学医局離れ

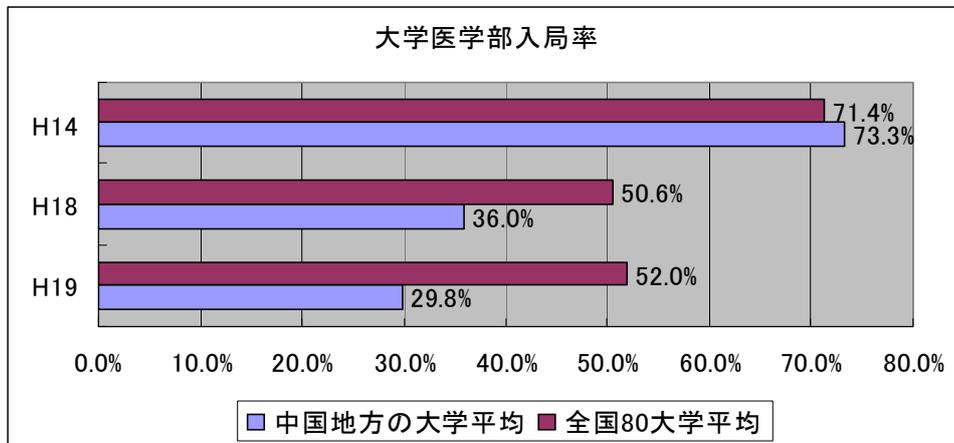
平成16年に初期臨床研修制度が創設され、医師が自由に研修病院を選ぶことができるマッチング・システムが導入された。このことによって、より高度で専門的な研修が可能な都市部の大規模病院へ研修医が集中した。

その結果、大学医局に残る医師が減り、関連病院へ派遣している医師の引き上げにつながった。

島根県においても勤務医の約3割が島根大学医学部から派遣されていることから、県内の医師不足の解消には、島根大学医学部（医局）に医師が集まるような取り組みが必要である。

◎入局率

図表 6



資料：医療政策課

◎島根大学派遣状況（平成18～22年）

図表 7

(人)

年 度	H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2
県内の勤務医数	797	790	778	778	784
内島根大学からの派遣数	225	222	225	228	227
比 率	28.2%	28.1%	28.9%	29.3%	29.0%

資料：医療政策課

(3) 島根県内の医師の状況

①女性医師の増加

県内の女性医師数は、平成6年には191人であったが、平成20年には329人となり、総医師数に占める割合は12%から17%に年々増加している。

また、島根大学医学部在学生の概ね半数が女性であり、将来的にも女性医師が増加していく傾向にあるといえる。しかし、出産、育児時期に離職するケースが目立ち30代半ば以降の中堅層の医師数が少ない傾向にある。

現在、県においては、短時間正規雇用支援事業等を実施しているが、そもそも代替となる医師自体が不足していることから、満足な成果を出せないでいる。

このことから、各病院において、女性医師の短時間勤務や当直の免除等を行うためには、常勤医師を増やすことが重要である。また、育児休業等からの復職への支援も必要である。

◎女性医師の状況

図表 8

女性医師の状況									
女性医師数の年次推移(医師・歯科医師・薬剤師調査より) (人)									
年度別	平成6年	平成8年	平成10年	平成12年	平成14年	平成16年	平成18年	平成20年	
全 国	医師総数	230,519	240,908	248,611	255,792	262,687	270,371	277,927	286,699
	女性医師数	29,275	32,259	35,008	36,852	41,139	44,628	47,929	51,997
	女性医師割合	12.7%	13.4%	14.1%	14.4%	15.7%	16.5%	17.2%	18.1%
島根県	医師総数	1,655	1,715	1,747	1,807	1,850	1,895	1,939	1,911
	女性医師数	191	218	212	215	254	284	310	329
	女性医師割合	11.5%	12.7%	12.1%	11.9%	13.7%	15.0%	16.0%	17.2%

島根大学医学部在学生に占める女性比率(平成22年度) (人)							
学 年 別	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	全体
在学総数	100	103	103	93	98	101	598
うち女性数	46	30	46	48	39	42	251
女性比率	46.0%	29.1%	44.7%	51.6%	39.8%	41.6%	42.0%

資料：医療政策課

◎島根県医師の年齢推移

図表 9



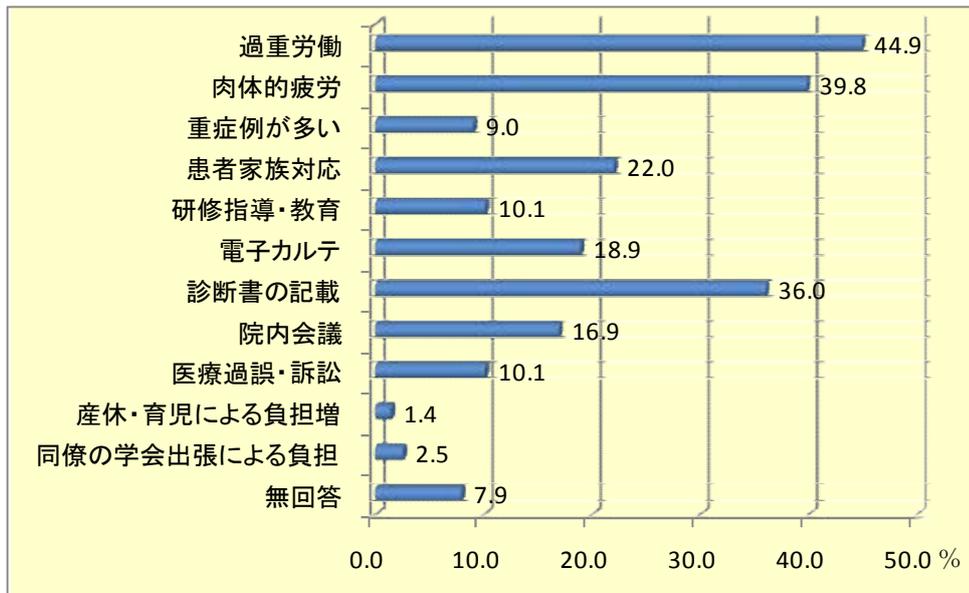
資料：医療政策課

②勤務医への負担

全国的な医師不足の中、県内の病院で働く多くの医師は、過酷な勤務を強いられている。勤務医への過剰な負担が、離職につながるなど悪循環が発生しており、働きやすい環境の整備が必要である。

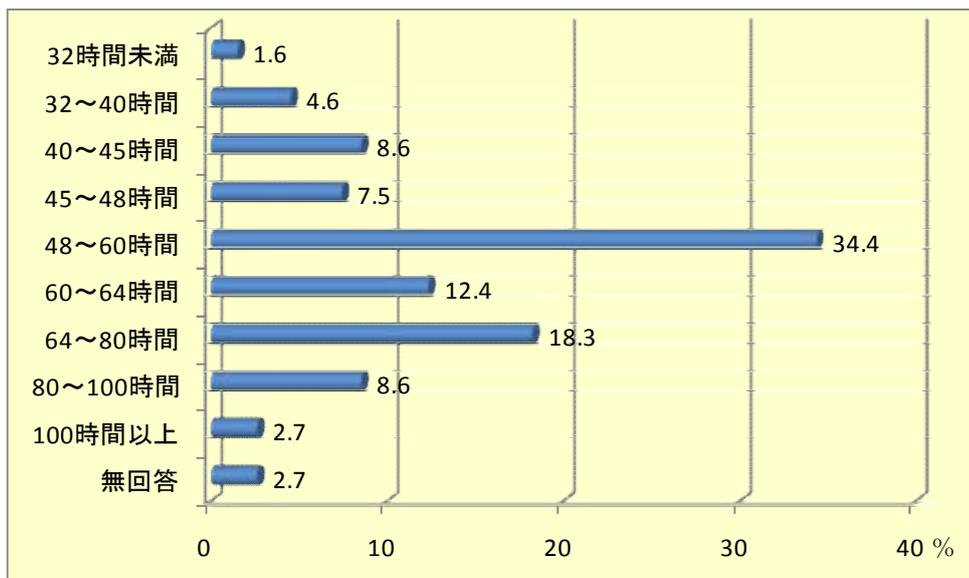
◎負担感

図表 10



◎実労働勤務時間

図表 11



資料：平成 21 年度 全国医師会勤務医部会連絡協議会報告書（島根県医師会）

(4) 国における医師確保対策

医師不足は全国的な問題であり、医師を確保することは、全国共通の課題である。また、医療制度は国による法制等により規定される部分が大いことから、医師不足の地域や診療科に医師が配置されるための取り組みの充実や制度の見直しなど国においても実施される必要がある。

2. 関係者との意見交換

医療現場及び教育現場における「現場の声」を聞き、本県における医師不足の実態を把握し、施策に反映させるため、関係者との意見交換会を実施した。

(1) 意見交換した関係者

分類	テーマ	意見交換相手方	開催日
医学生 若手 医師	医師を目指した動機等	県立中央病院研修医（4人）	H23. 1. 19
		島根大学医学部学生（4人）	H23. 1. 19
教育関係	医師を志す子どもの教育	県教育委員会教育監	H23. 3. 2
		益田高校校長	H23. 2. 17
医療関係	本県及び各病院等が抱える課題等	島根大学医学部附属病院長	H23. 3. 1
		県立中央病院病院長	H23. 2. 21
		邑智病院病院長	H23. 2. 24
		浜田医療センター院長	H23. 2. 28



(2) 主な意見

医学生	<p>○幼馴染が病気になり、医者を目指した。</p> <p>○小さいころ、医者は別の世界の人というイメージがあった。</p> <p>○早いうちから身近に医療がある環境が大事だと思う。</p> <p>○医学部進学には親のかかわり方が重要。</p> <p>○大学医局は学生にとって敷居が高くて、近寄りにくい。</p> <p>○将来、勤務先を選ぶとき、出身大学は母校であり帰りやすいところである。</p> <p>○専門分野を選択するとき、訴訟リスクをどの程度考慮するかは、人によって違いがある。</p> <p>○赤ひげバンクの勧誘は紙一枚でなく、もっと丁寧に説明してほしい。</p> <p>○都会の病院に研修に行ったが、人が多すぎて島根大学からの学生は相手にしてもらえなかった。</p> <p>○大学入学時は、一般教養の勉強ばかりで、医療に対するモチベーションが下がる。</p>
若手医師	<p>○親や親せきが医療関係者であったので、医師になった。</p> <p>○地域枠で入学した人の中には、それほど地域医療に関心のない人もいる。島根に残りたくなるような教育をしてこなかった大学にも問題があった。</p> <p>○大学1年生は基礎科目ばかりでモチベーションが下がりやすい。大学からの積極的なアプローチが必要。</p> <p>○隠岐島前で全国から人を集めて地域医療セミナーを開催したら面白いと思う。</p> <p>○今後も、島根で働こうと思っているが、先進医療を学ぶため、県外で研修はしたい。</p> <p>○診療科の偏在については、世間で言われるほど医者は訴訟リスクを意識して敬遠しているわけではない。</p>
教育関係者	<p>○「夢実現進学チャレンジセミナー」はモチベーションを高く持つことができる。</p> <p>○中学生から「夢実現進学チャレンジセミナー」に参加することは、今後の目標を持つことや意識付けという面で良いことと思う。</p> <p>○医師の職場体験は、保護者も一緒に実施してはどうか。</p> <p>○保護者に医学生向けの奨学金の話をする、その手厚い内容に驚かれる。医学部はお金がかかるとしており、医師が職業の選択肢にない保護者がたくさんいる。</p> <p>○地域として、どのような人材を求めて、そのために地域の学校教育をどのようにしていくのか、市町村が一緒になって考えてほしい。</p>

医療関係者	<p>○小さいころから医療に対する教育が必要。</p> <p>○地域医療の問題は、へき地・離島の問題ではなく、大学や県東部の病院から医師が派遣できないことが問題である。</p> <p>○医局に医師がたまっていくことは大事。</p> <p>○従前、医局は家族であり、卒業生の面倒を見ていた。そういう意味で医局は大事である。</p> <p>○島根大学医学部の卒業生が今、何をしているのか非常に興味がある。</p> <p>○住民は病院に対する期待が高すぎる。</p> <p>○住民が「みんなで医師を大事にする」という気持ちをもって、行政が主導し、地域の病院を支える体制づくりが必要。</p> <p>○地域の理解がない病院には、医師は行きたがらない。</p> <p>○各市町村長は、陳情だけではだめ。「自分たちで医師を育てる」という意識が必要である。</p> <p>○男性医師と女性医師の区別は、出産時以外にはないと思っている。</p> <p>○女性医師については、育児時の病院とのつながりの持続が大事。</p> <p>○少ない医師で救急に対応するために、医師に専門外医療をお願いしている。</p> <p>○一般に言われている訴訟リスクは、減ってきているので、それほど心配いらない。</p> <p>○へき地には、進学校がなく受験生を持つ医師の定住が難しい。</p> <p>○初期臨床研修医の偏在の問題は、時間が解決すると考える。</p> <p>○国全体として、ある程度、強制力をもった医師配置の仕組みが必要。</p> <p>○20年後は、医師余りになる可能性はある。しかし都会の医師がへき地に行くことはない。</p> <p>○今後、へき地の人口は減っていくなかで、従来どおりに医師を配置することは無駄である。</p> <p>○病院の数だけ医師が必要となるから、医師不足が生じる。県内において病院の集約化が必要である。</p> <p>○病院統合の成功事例は、都会地の近接する病院の統合であり、島根県のへき地では、うまくいかない。へき地の切り捨てである。</p>
-------	---

3. 課題解決のための政策方針

プロジェクトチームとして政策提案する基本的な考え方については、「現状と課題」及び「関係者との意見交換」を踏まえ、以下のとおりとした。

(1) 「つながり」を重視した医師の育成

「縁」を大切にする島根県ならではの方策として、幼少期～小・中学生～高校生～大学生～若手医師・指導医（医局）へと連なる人間同士の「つながり」を強化し、島根県で勤務する医師を増やしていく。

① 医師の道を志す子どもを育てる

長期的には、県内出身者の医師を育成すること、すなわち「医師の道を志す子どもを育てる」べきである。そのためには、子どもたちが幼少期から、教育等様々な機会を通じて「医療」にふれあうことが重要である。

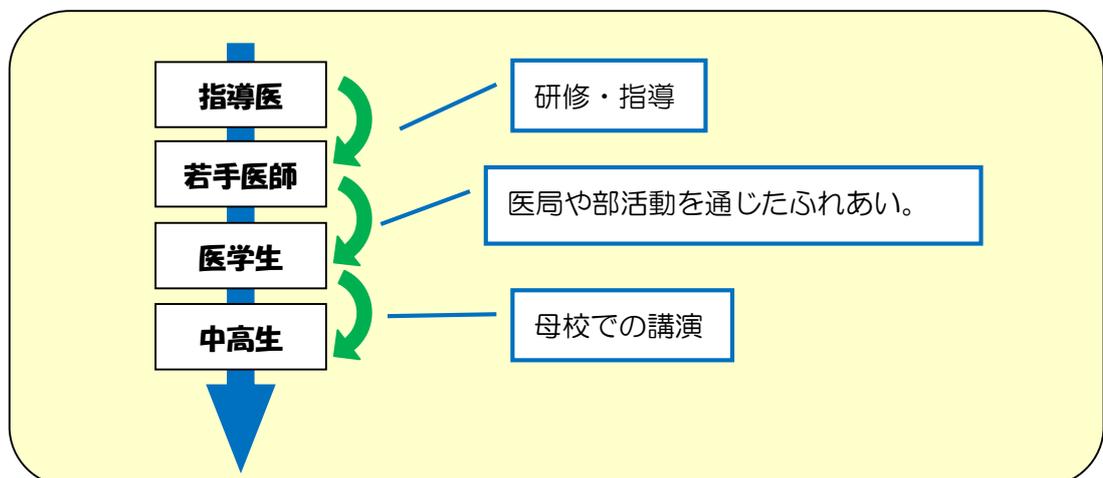
また、保護者に対しても、子どもたちが「医師の道」に進むことへの理解や地域医療の現状の理解を深めてもらう。

② 島根大学医学生及び卒業生の県内（医局）への定着

一方、「医師の道」を志した子どもたちが、そのまま、地元の高校を卒業し、島根県における唯一の医育機関である島根大学医学部に進学し、県内（医局）へ定着することは大切であると考え、それには長い時間がかかるため、短期的には、赤ひげバンク等により、引き続き島根県出身者を含めた医師のU・Iターン対策を実施していく必要がある。

最終的には島根県で働きたい医師が、県内勤務医最大の供給元である島根大学医学部医局に集うことができれば、派遣を通じて、安定的に県内の中核的な病院に定着していけると考える。

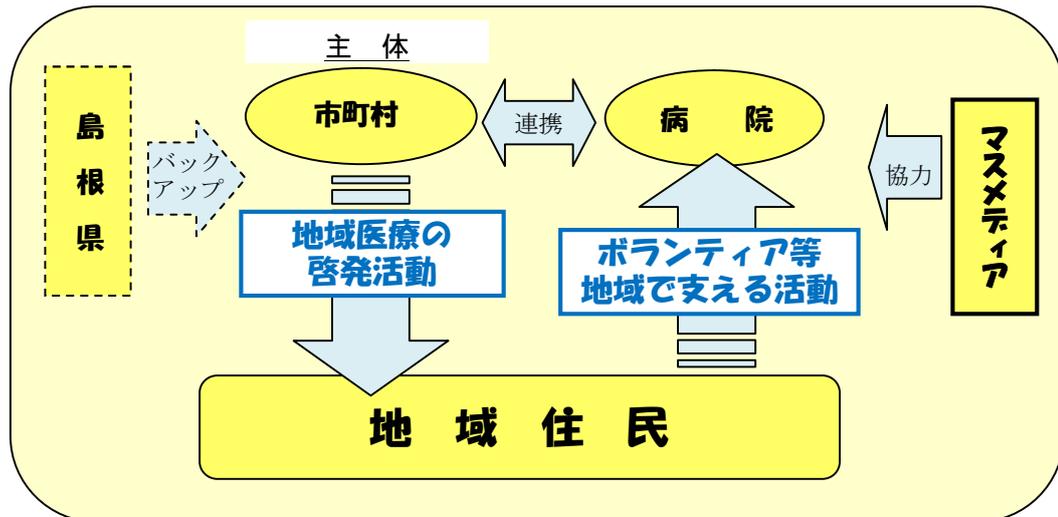
そのためには、その中心となるべき島根大学医学部が「魅力」あふれるものでなければならない。



(2) 住民への地域医療の啓発

現状では、各地域における医療の実情、勤務医の実態について、知らない人が多い。医師確保のためには、市町村及び地域住民が一体となった活動は不可欠であり、そのために必要な啓発活動を実施していく。

こうしたことで、住民が地域の医療実態を理解し、様々な形態で地域医療を支援する活動等を行うことを期待する。



(3) 現役医師への支援

勤務医の過重労働の抜本的な解決は、常勤医師を確保することだが、その負担感を少しでも和らげ、本来の診療業務に十分に従事でき、より質の高い医療行為が行えるように生活面も含めた環境整備を図る。

4. 具体的な施策

I 医師の道を志す子どもを育てる

医師の道にチャレンジしよう！

(1) 夢実現進学チャレンジセミナーの充実

夢実現進学チャレンジセミナーは医学部を含む理系難関大学・学部への進路希望を実現できるよう支援する制度であり、平成21年度から実施している。現在、年一回高校2年生を対象に3泊4日のセミナーを実施しているが、早期からの意識付けを図るため、本制度の充実を図る。

①夢実現進学チャレンジセミナーの開催回数が増

医学部進学へのモチベーション及び学力を早期から向上させていくため、現在実施している高校2年生に加え、中学2年生及び高校1年生を対象としたセミナーを追加し、県政の抱える課題について考えるとともに、社会で求められる人材について議論することで、中学から高校へつながる取り組みを構築する。

【中学2年生編】

地域課題を通じて、自分の人生設計について具体化していくことを目的とし、首長による地域の病院の現状に関する講義、中学で学ぶ意義に関する講義、ワークショップ形式による研修（地域の中で自分がどう生きていくか等について考える）、地元で活躍する先輩との交流会（島根大学医学部地域枠等学生）及び保護者も交えた進路説明（医学生向け奨学金等各種支援制度等）などを実施する。

主体：県

※当初は県がモデル地区を指定した上で実施し、最終的には各市町村が各地域課題を踏まえ、「どういう子どもを育てていくか」ということを念頭に持ち事業実施

【高校1年生編】

それぞれが進む道へのスタートをきることを目的とし、県政課題や「社会に求められる人材」（講師例：島根大学医学部長）及び高校で学ぶ意義（講師例：様々な業界で活躍する著名人）に関する講義、ディスカッション（地域医療について、現在の問題やその解決方法について議論）、先輩との交流会（島根大学医学部地域枠等学生）及び保護者も交えた進路説明（進学・就職に向けて、県医療の現状及び医学生向け奨学金等）などを実施する。

主体：県

【高校2年生編】 ※既存事業

具体的な進路目標の実現を目的とし、大学教授による基調講演、県内教員による教科授業（アウトプット型授業）、医学実習及び医学部長講義（理系のみ）などを実施している。

（2）夢チャレンジサポーター制度による出身学校への出前講座

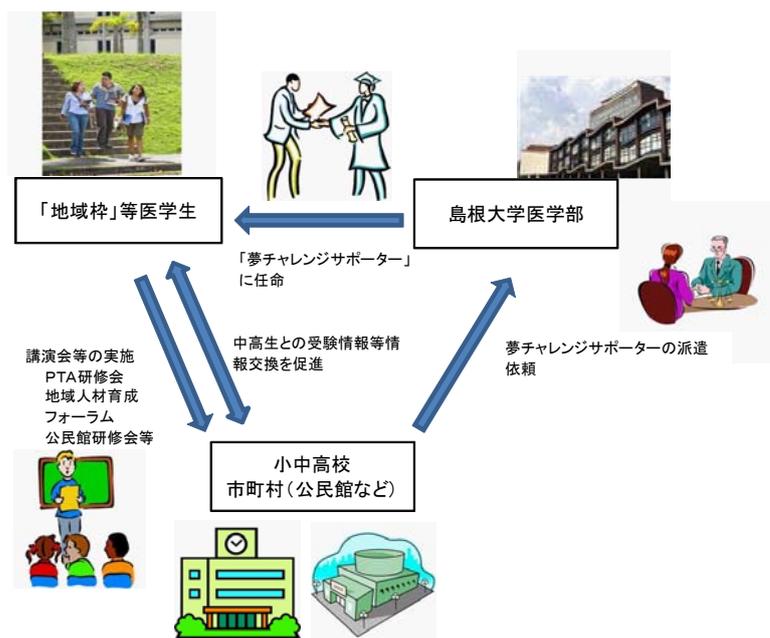
島根大学医学部が地域枠等の医学生を「夢チャレンジサポーター」に任命し、サポーター活動により、中高生が、地域貢献に対する心や医師を目指すことに対する気持ちを醸成していくことを支援する。またサポーター自身についても、この活動を通して地域医療へのモチベーション向上につなげていく。

島根大学医学部が地域枠等の医学生を「夢チャレンジサポーター」に任命し、各中学校、高校または市町村からの希望を調整の上、地域人材育成フォーラムやPTA研修会の講師として派遣する。

講演会をきっかけにし、各学校が仲介役になり、講師と中高生との情報交換を促進する。また、制度を周知・普及するため、県では各高校進路指導部教員への研修を実施する。

主体：島根大学医学部

《夢チャレンジサポーター制度イメージ図》



(3) 地域医療に関するDVD及び絵本の制作・活用

小中学生が、医療を身近な存在として感じるとともに、医師の魅力・やりがいや地域医療の実態を伝えることにより、医師志望へのきっかけづくりをするため、教材を製作し活用を図る。

①DVDの作成

小中学生を対象に、病院の役割・仕組み、医師の仕事、地域の病院が抱える課題、若手医師からのメッセージ（医師のやりがい・魅力）及び地域医療に熱い病院長からのメッセージなどを盛り込んだDVDを作成し、道徳の時間などにおいて活用する。

また、DVDを効果的に活用できるよう、教員を対象とした地域医療の現状等の理解を深めるための研修を実施する。

主体：県

②絵本の作成

保育所・幼稚園・小学校低学年を対象に、地域における医師の活躍や病院の役割を表現した絵本を作成し、道徳の時間など授業における活用や親子での読み聞かせなど、子どもたちだけでなく、保護者に対しても島根の地域医療に興味を持ってもらうきっかけづくりとする。

主体：県

II 島根大学医学生及び卒業生の県内（医局）への定着

さらなる「魅力」アップ！

（1）キャリア構築の支援

島根大学医学部（医局）が、医学生に対し、島根県で求められている医療への理解を深める機会を提供する。

現在、島根大学医学部においては、キャリア形成部門を設置し、医師と学生の交流会等を実施している。

医学生の県内定着に向けたさらなる取り組みとして、県内で求められている医療に対応したキャリアが県内でも構築できる仕組みづくりなど、よりきめ細やかな働きかけを行う。

①大学1年生へ重点的な働き掛け

大学1年生は入学当初、明確に医師のイメージが描けておらず、また、講義も基礎的なものが大部分である。このことから入学時のモチベーションをそのまま維持し、さらに高めるとともに大学を起点とするキャリア形成に向けた関係を構築する。

②大学2～4年生へ履修に応じた働き掛け

島根県において必要とされる「地域医療」や「専門性」への関心を維持させるとともに、県内の医療機関との関係を構築していく。

《事業例》

【新入生合宿】

医学生としての学生生活に慣れるとともに、学友のつながり、医療現場の体験を通じて医学生としてのモチベーションや地域医療への関心を高めていくため、全1年生を対象とした合宿を実施

【キャリアセミナー】

「医師」として生きていく具体的な人生設計（「地域医療」や「専門性」）を考えていくための動機付けとするため、テーマを設けセミナーを開催

【地域医療セミナー】

地域医療に関して、大学（医局）・自治体・住民・地域医療機関と地域の課題認識・解決策の検討をすべく多様な単位でセミナーを開催

（２）魅力ある医局づくり

従来の医局にあった地域ローテーション的な医師の安定的キャリア形成と地域への医師の配置を可能とした機能の復活を目指す。

今後、研修医が「母校」である島根大学に定着していくためには大学（医局）が様々な面で「魅力」あふれるものでなければならない。

そのためにも、医局の敷居を低くし、学生等がいつでも集えるようにするとともに大学（医局）関係者の県内定着に向けた持続的な働きかけが必要である。

① 大学卒業生への働きかけ

現時点までの島根大学医学部の卒業生は約3000人であるが、その卒業後の進路等実態が把握できていない。母校である島根大学医学部が、積極的にフォローアップし、関係者間で常時、情報交換できるような体制が必要である。

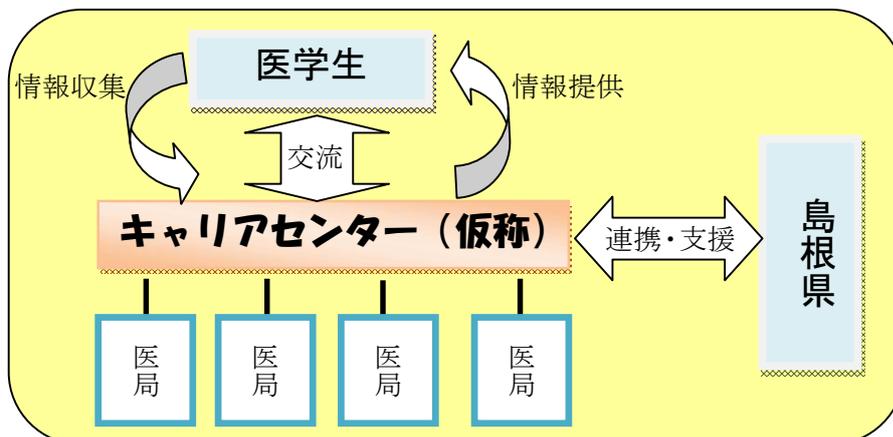
② 研修プログラムの充実

島根県内においても、キャリアアップできるよう、県内の医療機関と連携した魅力ある研修プログラムを提供する。

③ 組織体制の強化（「キャリアセンター（仮称）」の創設）

医局の敷居を低くし、医局がより身近な存在となるよう、医学生と医局とをつなぐ潤滑油的な役割を担う組織として「キャリアセンター（仮称）」を創設し、組織体制の強化を図る。従来、医局により温度差のあった医学生との交流等を統括するとともに研修プログラム等の情報の提供等を担っていく。

県としても、本センターに積極的に関わっていくことにより大学と連携して医師の確保を図っていく。



III 地域医療の啓発

みんなで地域の医療をかんがえよう！

(1) 地域医療を考える日（週間）（仮称）の創設

特定の日や週間を設定し、県全体で一斉に取り組みを行うことで、県民に島根の地域医療に興味を持ってもらうきっかけをつくり、地域医療の現状を知ってもらうと同時に、地域で勤務する医師を大切にする意識や医師確保の重要性を認識してもらう。

また、子供から大人まで、参加しやすいイベント等を開催し、幼いときから医療を身近に感じてもらう。

例：9月9日（救急の日）、11月1日（いい医療の日）
11月14日（医師に感謝する日）

① 各地域と医療機関のつながり

地域医療を支える上では、市町村が主体となり、住民と医療機関が一体となった活動が必要である。また、マスメディアにも積極的に参加してもらい、地域医療の重要性をより広域的・効率的に広報していく。

② 「病院まつり」の開催

現在、個々に開催している病院もあるが、「地域医療を考える日」を中心に、集中的に開催することにより、効果的な周知を狙う。さらに、各地域で市町村が主体となることにより、地域ごとの実情や問題点、PRしたいことなど、その地域ごとにテーマを統一して計画することができ、実情にあった特色を出すことができる。

こうしたことで、県内で「地域医療」という大きな中、自由にテーマをつくり、医師不足、看護師不足、各種専門医の不足など、それぞれが地域住民に訴えていけるような啓発イベントとする。

また、「自分の地域の医療はどうなっているのか。」「住民側にできることはないのか。」「行政、医療者、マスメディア等にできることはないか。」など、地域で協力し合って医療を確保していくきっかけづくりを行う。

《具体的な例》

項目	内容
医師疑似体験	医師という職業を疑似体験。医療や医師の仕事に興味を持ってもらうきっかけに！（小学生を対象）
地域医療講座 （シンポジウム）	「かかりつけ医」「救急医療」等をテーマに講座（シンポジウム）を開催し、地域の医療の現状を共有する。
病院内ツアー	見たこともない病棟内部を探検しよう。
ありがとうメッセージボード	医師や看護師に普段は言えない感謝の気持ちをカードに書いてボードに貼っていく。
健康診断	骨年齢、骨密度や血管年齢など普段とは違った角度での健康診断を実施する。
マンガ・ドラマフェア	医療関係のマンガ・ドラマなどを気軽に見られるように。
医療豆知識 コンテスト	医療関係の豆知識をコンテスト形式で募集する。住民の医療知識の底上げも可能。
各種イベント	石見神楽、特産品販売等

③ お医者さんへ感謝を伝える

普段お世話になっている、またお世話になった医師への感謝の手紙を県民から募集する「お医者さんへ感謝の手紙コンクール」を実施。

表彰式は各病院で実施する病院まつりで行う。手紙は医師に届けるほか、ホームページにも掲載する。

また、各病院において、名刺サイズで手軽に書いて感謝の気持ちを伝える「サンクスカード」を配布し、診療の際などに医師に渡す取り組みを行う。



(2) PRキャラクターグッズの作成

キャラクターによるPR活動を行い、地域医療を身近に感じてもらい
島根の医療に興味をもってもらうきっかけにする。

① 医師募集キャラクター「赤ひげ先生」の活用

島根県には「しまねっこ」や「吉田くん」といったキャラクターが存在する。医療分野においては、県の医師確保「赤ひげバンク」のキャラクターである「赤ひげ先生」をPRキャラクターとする。

「赤ひげ先生」の着ぐるみを作成し、病院まつりや医療関係の各種イベントで啓発活動をすることで、イベントへ参加しやすい雰囲気作りを行う。

併せて、医師確保に対する活動を印象強くすると同時に「赤ひげバンク」の周知もねらう。

② キャラクターグッズの作成

キャラクターグッズを作成し、特に小さい子どもが参加する各種イベントで活用することにより、幼少期から医療に興味をもってもらう。

- ・赤ひげ人形
- ・赤ひげばんそうこう
- ・赤ひげカバンの救急セット
- ・赤ひげストラップ など

島根県医師募集キャラクター
赤ひげ先生



島根県観光キャラクター
「しまねっこ」
島観連許諾第8号

SHIMANE
AKAHIGE
BANK

IV 現役医師の支援

しまねで長く働いてもらおう！

(1) 各病院への地域医療マネージャー（仮称）の配置

医師が本来の診療業務に可能な限り集中し、より質の高い医療行為を提供できるよう、企画調整を行う専門職員を配置する。

① 地域医療マネージャー（仮称）への人件費補助

医師確保をはじめとする下記の業務を専門に担当する職員を配置する病院に対して、人件費を補助する。

《業務内容》

- ・ 医師確保
- ・ 大学医学部、医療機関、行政との連絡調整
- ・ 臨床研修医の募集、受入
- ・ 医学生実習の受入
- ・ 小中高生の医療職場体験の受入
- ・ 地域医療を考える日（週間）等啓発事業への医学生・医師の派遣調整
- ・ 病院まつり等の実施 等

② 島根大学大学院医学系研究科医科学専攻（修士課程）「地域医療支援コーディネータ養成コース」（※）への派遣における授業料等補助

より専門的な知識をもって効果的に業務を行うため、市町村及び病院の職員が、地域の医師定着支援と地域で働く医師等の支援を行う人材を養成することを目的とする上記コースを受講する場合、入学料及び授業料を補助する。

※地域医療支援コーディネータ養成コース

県及び各市町村において、地域の医師定着支援と地域で働く医師・看護師等の支援を業務とする「地域医療支援コーディネータ」を養成するため、平成21年4月に開設された社会人向けのコース。平成23年3月に1期生である4名が課程を修了した。

県では、修了者に対し、その地位の向上を図ることによって、地域で働く医師の地域定着の推進等、さらには地域医療の充実を図ることを目的として「島根県地域医療支援コーディネータ」の称号を付与した。

(2) 女性医師への支援

今後、ますます増加が見込まれる女性医師が生涯医師を続けられるよう、妊娠、子育て、介護等を契機に仕事を中断するか辞めることなくライフステージに応じて働くことのできる職場環境の整備を図る。

① 復帰への支援

出産等で一時的に現場から離れた医師が安心して復帰できるよう、個々の要望に応じた多様な支援プログラムを提供するなどの支援を行う。

(3) 医師の生活環境の整備

超過勤務など過酷な労働環境を強いられている勤務医が、勤務後十分に休息が確保できることにより肉体的・精神的に健康が保持できるよう、生活環境を整備する。

① 医師住宅の整備

快適な居住空間を持つ医師住宅を整備する病院に対して、建設費を補助する。

V その他

赤ひげバンクへの登録をお願いします！

(1) 赤ひげバンク制度の充実

「赤ひげバンク制度」は、島根県の地域医療に興味がある医師等を登録し、情報交換等を行い、ネットワークを広げる目的で運用され、県外からの現役医師を平成14年から21年までに57人招聘し、成果を上げているが、さらなるネットワークの拡大のためには、医学部に進学した学生からの登録を積極的に増やすことが重要である。

一方、医学生からの聞き取りでは、「登録してどうなるのか分からない」や「メリットがない」等の声を聞いている。

このことから、定期的な情報発信を行い、県内定着に向けた窓口となるよう調整する。

また、各地で赤ひげ登録者の会議を行うなど、登録へのインセンティブを高めるよう制度を充実させ、さらなるネットワークの拡大を目指す。

① 医学生への働きかけ

島根大学や島根県出身他大学の医学生に向けて、持続的な働きかけを行う。

また、すでに登録している先輩の声を届けること、大学に出向いた勧誘、高校卒業前の医学部合格者に対する勧誘、奨学金受給者への登録義務づけなど、学生の登録者増をめざす。

② 赤ひげ会議の開催

東京・広島などで赤ひげ登録者を集めた会議を定期的に行い、県の地域医療の現状を説明し、情報交換等を行う。

③ 登録者・医師紹介者への動機づけ

登録への動機づけのためバンク登録者、および医師紹介者に対して島根の特産品を贈る。

④ 地域医療支援センター（仮称）（※）活用による現役医師等の効率的な受入調整

将来、発足予定の地域医療支援センター（仮称）に学生、医師と医局・医療機関・島根大学OBとの橋渡し役を担う地域医療マネージャー（仮称）を配置し、島根大学OBの現状把握を含め、赤ひげバンクのデータベース化や連絡体制を強化する。

※地域医療支援センター（仮称）

島根大学、県内医療機関、医師会、行政などが参画し、若手医師のキャリア形成支援とともに、様々な世代の医師が島根県に帰って地域医療に従事できるよう情報発信やコーディネート機能を強化し、地域の医師不足病院の医師確保に取り組むため、県が設置する機関

附 属 资 料

1. 島根県が実施している事業

地域医療を支える医師確保養成対策事業 【H23年度】

対象	医師	施策内容																														
中・高校生	育てる	1 高校生等医療体験セミナー ○医師を目指すための動機付けのためのセミナー開催 ・対象：中学生1年～3年生 夏季休業中に1回開催 高校生1年～3年生 夏季・春季の2回開催																														
		2 夢実現進学チャレンジセミナー ○学力上位の高校生を対象とした宿泊合宿で、医学部進学の動機付けを目的とする講義、医療体験実習を実施 ・対象：医学部等難関学部志望2年生40名 夏1回開催 ※高校教育課・島根大学との連携事業																														
		3 奨学金事業 ○医師として県内地域医療機関に携わる意志のある大学生、大学院生に対する奨学金																														
医学生	育てる	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>新規</th> <th>継続</th> <th>計</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域医療奨学金（一般枠） 枠10人</td> <td>0人</td> <td>29人</td> <td>29人</td> <td>1,200千円/年+入学金282千円（県内勤務：地域枠に同じ） ※新規分については基金事業に移行再編</td> </tr> <tr> <td>地域医療奨学金（地域枠） 枠10人</td> <td>10人</td> <td>40人</td> <td>50人</td> <td>1,200千円/年+入学金282千円 県内勤務：初期研修後賃与期間の3倍の期間内に賃与期間と同期間（半分へき地）</td> </tr> <tr> <td>しまね医学生特別奨学金 枠3人</td> <td>0人</td> <td>3人</td> <td>3人</td> <td>1,500千円×2回（県内勤務：初期研修後すぐに6年間） ※新規分：H21貸付をもって終了</td> </tr> <tr> <td>緊急医師確保対策 枠5人</td> <td>5人</td> <td>10人</td> <td>15人</td> <td>1,200千円/年+入学金282千円 県内勤務：卒業12年以内に9年間（うちへき地4年間）</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>15人</td> <td>82人</td> <td>97人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	新規	継続	計	備 考	地域医療奨学金（一般枠） 枠10人	0人	29人	29人	1,200千円/年+入学金282千円（県内勤務：地域枠に同じ） ※新規分については基金事業に移行再編	地域医療奨学金（地域枠） 枠10人	10人	40人	50人	1,200千円/年+入学金282千円 県内勤務：初期研修後賃与期間の3倍の期間内に賃与期間と同期間（半分へき地）	しまね医学生特別奨学金 枠3人	0人	3人	3人	1,500千円×2回（県内勤務：初期研修後すぐに6年間） ※新規分：H21貸付をもって終了	緊急医師確保対策 枠5人	5人	10人	15人	1,200千円/年+入学金282千円 県内勤務：卒業12年以内に9年間（うちへき地4年間）	計	15人	82人	97人	
		区 分	新規	継続	計	備 考																										
地域医療奨学金（一般枠） 枠10人	0人	29人	29人	1,200千円/年+入学金282千円（県内勤務：地域枠に同じ） ※新規分については基金事業に移行再編																												
地域医療奨学金（地域枠） 枠10人	10人	40人	50人	1,200千円/年+入学金282千円 県内勤務：初期研修後賃与期間の3倍の期間内に賃与期間と同期間（半分へき地）																												
しまね医学生特別奨学金 枠3人	0人	3人	3人	1,500千円×2回（県内勤務：初期研修後すぐに6年間） ※新規分：H21貸付をもって終了																												
緊急医師確保対策 枠5人	5人	10人	15人	1,200千円/年+入学金282千円 県内勤務：卒業12年以内に9年間（うちへき地4年間）																												
計	15人	82人	97人																													
研修医	育てる・呼ぶ	4 自治医科大学運営費負担金等 ○地域を担う医師を養成する自治医科大学の運営費負担金																														
		【育てる】基金事業 ○奨学金事業（新規24枠（骨太：12枠、新成長戦略：4枠、特定診療科：8枠）） ○研修医研修支援資金（新規25枠） ○島根大学医学部寄附講座の設置																														
		5 研修医等定着特別対策事業 ○県立中央病院の専任指導医（1名）による研修病院の指導医、研修医への助言・指導支援 等 ○臨床研修プログラム作成支援																														
医師	呼ぶ	6 不足診療科後期研修支援事業 ○精神科医の県内定着を目的として、後期臨床研修医を知事部局正規職員として採用 ・毎年度2名を上限に、県立こころの医療センターに配置（3年間） ・研修終了後2年間の県内勤務義務																														
		7 医師確保チームによるアクティブプロジェクト事業、ドクターバンク事業 ○全国の医師に積極的に働きかけ、県内に呼び寄せる事業、民間・公的医療機関の求人求職情報を一元管理する事業 ・医師確保チームによる出張訪問面談、県内医療機関視察ツアー、医師募集広告掲載、ドクターバンク 等																														
		8 地域勤務医師支援事業（県立病院管理事業費） ○医療政策課付け県立病院研修医等に係る給与（県立病院拠出金）																														
		9 地域勤務医師支援事業 ○医療政策課付け県立病院研修医の研修経費、指導医経費等（県立病院拠出金）																														
		10 地域勤務医師支援事業 ○地域勤務医の学会等参加費、赤ひげ招聘医師等で構成するしまね地域医療の会の開催、地域医療支援会議の開催等																														
		【呼ぶ】基金事業 ○大学における地域勤務医師育成支援事業 ○県外医師へのPR経費 等																														
		11 へき地診療所等医師確保支援事業 ○へき地診療所に勤務する医師の交通費（遠距離通勤手当）補助（国2/3、医療機関1/3）																														
		12 地域勤務医師支援事業 ○県立病院からの代診医派遣 ※経費は派遣先が負担																														
		13 救急業務従事手当への助成 ○救命救急センター及び第二次救急医療機関に勤務する医師確保のため、特に過酷な夜間・休日の救急医療業務に従事する医師に手当を支給する医療機関に対する補助（国1/3、医療機関2/3）																														
		14 診療所医師の協力支援事業 ○地域の診療所医師が夜間休日の夜間休日の診療支援を行う際の経費を補助（国1/3、医療機関2/3）																														
医師	助ける	15 周産期医療体制の構築事業 ○分娩業務手当の助成（国1/3、医療機関2/3） ・対象：分娩業務従事者に分娩手当を支給する医療機関、@10千円/件 ○産科医療機関確保事業（国1/2、県1/2） ・対象：分娩件数が少なく経営困難な公的、公立産科医療機関に対する財政支援 ※邑智病院、隠岐病院、奥出雲病院 ○若手産科医師手当の助成（国1/3、医療機関2/3） ・対象：産科の後期臨床研修医への処遇改善を行う医療機関、@50千円/人/月 ○新生児医療担当手当の助成（国1/3、医療機関2/3） ・対象：NICUを担当する後期臨床研修医への処遇改善を行う医療機関、@10千円/新生児数 ○若手産科医師研修事業（国1/3、県2/3） ・若手医師の県内定着のため、医療技術向上と医師間のネットワーク強化を目的とした研修を実施																														
		16 女性医師就業支援事業 ○女性医師の割合が増加する中、結婚・出産後も継続して就業できるよう支援 ・女性医師研修サポート事業（県内勤務が決定済みの女性医師が、松江江日赤等で最長2ヵ月間研修） ・女性医師意見交換会（年1回）																														
		【助ける】基金事業 ○医師事務作業補助者設置支援事業 ○地域医療を守る普及啓発支援事業 等																														

2. 若手職員政策提案（医師確保対策検討PT）検討会議等経過

開催	日付	項目	内容
第1回	12月27日（月）	顔合わせ・医療政策課レク 知事ミーティング	知事との初回ミーティングと医師確保の課題について勉強
第2回	1月11日（火）	勉強会	地域医療問題について包括的に勉強
第3回	1月19日（水）	聞き取り調査	若手医師、医大生、からの聞き取り
第4回	1月24日（月）	調査内容整理	聞き取り調査の内容を整理し、分析
第5回	1月31日（月）	知事中間意見交換 （前段の打ち合わせ含む）	聞き取り調査の分析を踏まえ、課題、検討方向を簡単に整理して報告
第6回	2月7日（月）	具体的な施策検討	調査結果分析を踏まえ、施策を検討
第7回	2月17日（木）	意見交換	益田高校校長と意見交換
第8回	2月21日（月）	意見交換	県立中央病院長と意見交換
第9回	2月24日（木）	意見交換	邑智病院長との意見交換
第10回	2月28日（月）	意見交換	浜田医療センター長と意見交換
第11回	3月1日（火）	意見交換	島根大学医学部附属病院長と意見交換
第12回	3月2日（水）	意見交換	教育委員会教育監と意見交換
第13回	3月11日（金）	施策検討	意見交換を踏まえ施策提案の検討
第14回	3月28日（月）	原案作成	報告書原案の作成
第15回	4月28日（木）	知事報告	知事への最終報告プレゼン

